

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人綱領に合わせ、事業所目標を毎年設定し理念の共有に努めている	地域密着サービスの目的、意義を踏まえ、法人綱領を基に事業所理念を作成し職員全員が共有し個人目標に繋げ実践している。事業所理念は年度ごと見直しを行っている。	職員全員が理念に基づき実践し年度末に理念に立ち戻り、更なる利用者本位の構築に繋がるよう期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍もあり、現在は地域の方との交流が持ていない状況	コロナ禍の現状では近隣、自治会とも交流は行えない状況である。区長には書面での運営推進会議内容を届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	上記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	上記同様、運営推進会議は書面会議とさせていただきます報告のみ実施	コロナ禍の現状では運営推進会議を対面で行えず、現状報告、活動、行事、インシデント、アクシデント等を書面での報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	高齢者支援活躍課等からのメール内容を確認し必要事項は反映するよう努めている	市担当課よりの連絡は主にメールで届く。内容確認、事業所での共有事項、報告等を行っている。インシデント、アクシデント等速やかに報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法的位置づけでもある高齢者虐待に関しての学習会を毎年開催。毎月職場会議でも拘束廃止検討委員会を開催し、身体拘束がない状況を維持できるよう努めている	管理者、主任を中心に身体拘束廃止検討委員会を開催している。毎月の全体連絡会議で報告、確認し身体拘束のないケアに取り組み維持している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法的位置づけでもある高齢者虐待に関しての学習会を毎年開催し虐待が起こっていないか、見過ごされていないか注意できている。		

グループホーム南長池れんげそう 2丁目

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について学べる学習会は行えていなく、管理者ははじめ学習する場を設けるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては書類を通じ説明を行い、同意を得られている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	要望、苦情等は随時受け付けており、毎月家族向けに通信を発行し要望などにはお答えできる体制をとっている	家族が事業所を訪問し話し合うことが行えない状況が続いている。事業所からの月1回の通信、電話等にて適宜の連絡事項等の際、意見、要望等を出しやすいよう工夫している。出された意見、要望は職員全員で共有し運営の反映に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談を実施したり、会議の場で職員の意見、提案を聞き反映させるよう努力している	管理者は年1回職員と面談し意見、提案を聞いている。毎月の職員会議、毎日の朝会時等は職員は意見を出しやすく、利用者の受け入れ時や利用内容の継続、変更等反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接や、会議、その他業務の中で状況の把握に努めている。各自やりがいがある声掛けをおこなったり、ケアに対する想いを聞く機会を作るよう心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日常業務の中で指導をする場面を設けたり、役割を担っていただくようにし育成を図る努力をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	介護福祉士会での役員を務め、他法人との交流の場を設けるよう検討している。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	行動観察、行動把握に努め、事前アセスメントを基に声掛けを行い不安を軽減するよう努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込み時や契約時に困りごとの確認を行い、信頼関係の構築に努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居申し込み時や契約時に必要なサービスの確認を実施、入居後もその都度確認するようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	役割を持って生活できるようスタッフ同心がけ支援にあたっている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じ家族への連絡、場合によっては協力していただくよう依頼等実施	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	必要に応じ、面会の調整等行っている	面会は6月頃一時的に実施していた時があった。家族、親族等はズームでの面談を行っている。外出は行えないが外泊は出来る。その場合5日間の本人居室対応と抗原検査等コロナ感染対策を行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂での席など配慮し、職員が介入してなるべくみんなで話ができるよう支援している	

グループホーム南長池れんげそう 2丁目

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族とお会いした際など挨拶、お話をしよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望を確認し意向の把握に努めている	入所時に質問依頼書の記入内容、若い頃からの生活状況、希望等確認し職員間で共有している。日々の生活の中で会話を通しての希望や困難な場合は動作等意向を把握しながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や家族来所時に確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体調に合わせ声掛けし、離床促しを行えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	昼間にカンファレンスを実施し意見の共有、検討を実施している	担当制にし意見を確認している。プランニングの原本を送り、家族が意見、希望を記入し返信している。かかりつけ医、訪問看護と連携し日々の状態の変化や対応等情報を共有し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各勤務帯でその都度記録が行え、必要事項はホワイトボードを使用し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援、対応といったところでは、施設でできることに限りがあると、思い込む職員がおり、柔軟性には乏しい様子あり		

グループホーム南長池れんげそう 2丁目

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍もあり、地域との関係性が築けていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診等、必要に応じ支援できている	かかりつけ医と共に本人、家族の希望を確認している。隣接の診療所医師の往診が月1回あるが必要に応じ往診が行われている。専門の治療を要する場合は協力医療機関病院、脳外科、整形外科等の受診は職員により支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護へ連絡、週一回の訪問等、連携が図れている。また診療所への相談も行え、必要に応じ往診をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	上記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴い、家族希望を確認しムンテラを実施し、方針を医師とともに決めたいうでターミナル対応させていただいている。ターミナルに向けスタッフ間で意見交換できている。見取り後のデスカンファレンスも実施できている	入所時に本人、家族の意向について話し合っている。状況の変化に応じ本人、家族、主治医、職員等は話し合い、担当者会議を行い重度化、終末期対応を行っている。看取り後のデスカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応については学習会を実施し、少しでも不安なく業務につけるよう努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練、年1回の防災学習会を実施している	規定に沿って年2回防災訓練、年1回の防災学習会を行っている。今年は6月に実施、11月には夜間想定訓練を予定している。消火器使用の実施、自衛消防訓練通知書を消防署に提出している。2019年の台風災害以降ハザードマップの再確認、災害等対応の見直しを行った。災害に備えた備蓄は一覧表に沿って確認、入れ替え等を行っている。	コロナ禍での地域住民協力について区長、自治会長等と連携し協力体制が深まるよう期待します。

グループホーム南長池れんげそう 2丁目

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	概ね行えている	接遇研修、学習会を通し個々のスキルアップに繋げている。日々の対応の中で適切に行われているかどうか職員間で話し合うと共に個々の人格を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けしなるべく自己決定を促すよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間をずらしたり、入浴日を変更するなど柔軟な対応はしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容、整髪に気を付け、入浴後の衣類などは本人に確認しながら準備できている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の嗜好を確認したりし、お楽しみ給食の実施なども行えている	献立は嗜好、季節感のある食材等を利用者の希望を踏まえ職員が準備し、下ごしらえの一部は利用者が一緒に行っている。お楽しみ食、食べたいメニュー等随時取り入れて楽しい食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量の確認、排泄の有無の確認を行いながら、脱水予防に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後声掛け促しをし、必要に応じ介入している		

グループホーム南長池れんげそう 2丁目

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	なるべく洋式トイレへの誘導や、ポータブルトイレへ誘導を心がけている	1人ひとりの排泄記録がある。個々の排泄パターン、しぐさ等の確認、羞恥心に配慮しながら支援している。現在オムツ使用者は2人おり残存能力等模索している。排便コントロールが難しい利用者が1人おり医師、訪問看護師と連携しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールは訪看、往診時に相談し実施できている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日や時間の変更など柔軟に対応している	入浴は週2回、午後の予定となっているが本人の希望等に配慮し日時を変更している。気持ち良く入浴が出来るよう羞恥心、恐怖心等の配慮を行っている。リフトは1ヵ所設置されている。現在半数のリフト浴対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各自の疲労度を確認し、その都度臥床促しを行えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服状況の確認、必要に応じ介助にて内服し、状態の報告を訪看、往診時に行えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションをはじめ、余暇活動の充実が図れるよう声掛け、実施に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍もあり外出がほとんど行えていない	気分転換や五感刺激のため戸外に出かけたいがコロナ感染予防の現状ではほぼ実施できていないが、今秋はリンゴ狩りを計画中である。	

グループホーム南長池れんげそう 2丁目

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出の機会がなく、施設内での金銭の必要もないため現在は所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時、電話連絡、テレビ電話の実施を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適に過ごしていただけるよう清潔に心掛けている。	季節感や趣味を活かした装飾は和らぎに繋がっている。毎日清潔な環境で過ごせるよう時間を決めて台所、浴室、トイレ等の共有空間を清掃している。テーブル、手すり等は毎食後の拭き掃除、換気は時間を決めて行っている。温度、明るさを調整している。リビングのテーブル配置の工夫、ソファに座りゆったり過ごせるよう対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂のレイアウト、席等配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室をはじめとした、生活スペースの環境整備に努めている	1日1回の清掃、時間を決めて換気や温度調節を行っている。食事や午後のお茶の後は部屋でくつろいでいる。歩行時等転倒の危険性がある場合は動線上の安全確保が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立支援が行えるよう、役割を持って生活が送れるように日々カンファレンス、声掛けを行っている		